

第5回森と水の源流館授業づくりセミナー 実践報告会

日時 : 2024年2月3日(土) 10時~12時

場所 : 森と水の源流館

参加者: 対面18名、オンライン参加14名 計32名

大学より: 中澤静男、大西浩明、杉山拓次



1. 挨拶: 尾上忠夫氏(事務局長)

今年度「ふるさとづくり大賞」(総務省)の団体賞を受賞

ESDを軸とした流域交流、調査研究活動が評価された

「ESD動画100選」(環境省)に選定される → 動画視聴

2. 実践報告

○谷垣徹先生(奈良県立青翔中学校・高等学校) 「私たちの暮らしと水」(中学校1年)

校外学習を中心としたカリキュラムデザイン ← SSHのためESDのための時数がとれない

水不足のニュース 「大和豊年米食わず」

吉野川分水実現に向けた人々の営み

校外学習(森と水の源流館)

「探究基礎」の授業において、環境測定活動(ならコープ)に参加

科学的データから自分たちの生活を見つめ、行動を考える(青翔型ESD)

→ 中流に暮らす私たちにできること 「青翔宣言」



実践後に・・・

・学年一斉読書活動「森を愛さぬ日本人」

・技術家庭科「木づかい運動」

・秋の校外学習 大阪自然史博物館 「日本の林業には明日はないが、明後日はある」

「川上宣言」にある川上村の人たちの思いをもっと多くの人に伝えたい

派手なことではできないが、自分にできることをやっていく!

「水が当たり前だと思わなくなった」「家庭で自然についての話が多くなった」

中下流の人たちの流す水への意識の差 → 周りの人を巻き込んで一緒に行動できるようにしたい

○中谷栄作先生(和歌山大学教育学部附属小学校) 「きれいってなんだろう」(小学校3年)

学校のいいところは「きれいなところ!」 → 違和感

「ピピカピン大作戦」

学校をきれいに まちをきれいに

世界をきれいに 心をきれいに

生活の中に少しずつ水との出会いを近づける

つり ビーチでゴミ拾い

マイクロプラスチックを見つける



町中、川沿いでのごみ拾い

→ 上流の方から流れてきているのでは？

川上村はきれい！ 途中で汚れてしまっている！ 森・川・海はつながっている！

9月、川上村へ行こう（学校行事の関係でまだ行けない） 「3B宣言」の作成

ごみ拾いを広げる → 「自然をきれいにする心を3Bから広げます」

11月になってようやく川上村へ行く

「ありがとうや大好きが源流の森にとどくように」

心の距離を近づけることができた（水のこと、森のこと、ごみのことが身近になっている）

感情を伴って自分ごとにするのができた（大好きになる経験を学びとつなげる）

○原 孝博先生（奈良学園中学校・高等学校） 「奈良学園中学校・高等学校環境活動の取組」



敷地の半分が里山

ゲンジボタル、サギソウなど貴重な動植物も見られる

SSH 環境教育を全校生徒に実施する

中1 ゲンジボタルが住みよい環境にするために
再生可能エネルギーに関する学び

中2 ホタルの環境の変化

高校 環境科学実習

棚田で米を栽培しながら生き物の観察・調査

「森里海の連環」研修

ブナとヒト（白神山地） コウノトリとの共生（豊岡） サンゴとの共生（八重山諸島）

コロナ禍での制限により、川上村研修がスタート

「水源地の森と吉野林業」「未来の風景づくり」「源流学の森づくり」「歴史の証人」 など
本物に触れたこと、専門家の話を聞いたことで生徒の感覚が変わったのではないか。

「吉野川紀の川源流学」研修を構想中

森川里海について、それぞれ学べると考えている

森・・・水源地を守る取組

川・・・川上村にダムがある理由

里・・・大和平野改良区

海・・・製塩

○藪内智史先生・新宮済先生（奈良女子高等学校） 高校1年「奈良公園を中心とした探究の実践」

勉強への苦手意識

→ 学ぶ楽しさを見つける、自分の関心事を見つける
奈良公園をテーマに、学習したことを観光客に発信する
（動画作成、デジタル紙芝居など）

東大寺大仏のヒミツ？（SDGsと関連があるらしい）

奈良公園の人と自然との共生とは？

奈良は地震がきても大丈夫なの？

地域の防災のためにできることは？（3学期に実践中）



教科横断で探究を進める（歴史総合、生物基礎。英語コミュニケーションなどに関連させる）

奈良ではシカは神の使いとして大切にされてきた 天然記念物になる（歴史総合）

外国人観光客に説明（英語コミュニケーション）

生態系とは？ シカと関わっている生物は？（科学と人間生活・生物基礎）

「人とシカの共生する奈良公園はどうやって市民に守られてきたのか？」

フィールドワーク前日に発信（森と水の源流館、奈良鹿の愛護会）、評価

フィールドワーク 鹿苑への訪問、発信

動画作成 「Nature 甲子園」へ応募

LINE スタンプの開発、ショート動画作成など、得意なことを生かしてアウトプットできるように

自己肯定感が高まり、自分の役割に気づき前向きに学習に取り組む生徒が増えてきた

興味関心を深掘りし、探求し続けられる生徒に 2年生の取組につなげられたら

3. 栗山村長より



先生方がそれぞれの校種の中で、ESD を十分実践されていることが分かり、頼もしく思った。

川上村の様々な取り組みが、流域だけでなく様々な地域において学ぶ題材として使われていることで、私たちにもさらなる責任があると感じている。

今後も、さらにすぐれた教育実践が次々と生まれてくることを期待している。そこに川上村が登場することがあれば、なおうれしいことである。